

学校教育の現状と
これからの期待に関する
保護者アンケート
報告書

2020年12月吉日
マザークエスト

目次

1. はじめに
2. アンケートについて
 - (1) 目的
 - (2) 方法
 - (3) 対象者
 - (4) 期間
 - (5) 回答数、回答者の属性
 - (6) 対象となる学校
 - (7) 対象となる学校の地域
3. アンケート結果の概要
 - (1) 全国一斉休校中の学校及び学外活動に対する満足度
 - (2) 保護者が心配していること
 - (3) 保護者がこれからの学校に期待していること
 - (4) 学校教育におけるICT活用について
 - (5) 概要
4. アンケート結果の詳細
 4. 1 全国一斉休校中の学校及び学外活動に対する満足度
 - (1) 学校の種類別満足度
 - (2) 満足と回答した理由（抜粋）
 - (3) 不満と回答した理由（抜粋）
 - (4) 満足度につながる要因
 - (5) 学外活動でのオンライン利用と満足度
 - (6) 満足と回答した理由（抜粋）
 - (7) 不満と回答した理由（抜粋）
 - (8) 満足度につながる要因
 4. 2 保護者が心配していること
 - (1) 各質問への回答
 - (2) 自由記述で挙げられた保護者の声（抜粋）
 4. 3 保護者がこれからの学校に期待していること
 - (1) 各質問への回答
 - (2) 自由記述で挙げられた保護者の声（抜粋）
 4. 4 学校教育におけるICT活用について
 - (1) 家庭でのICT環境
 - (2) GIGAスクール構想について
 - (3) 学校教育にICTを導入する時期について
 - (4) 各質問への回答
 - (5) 自由記述で挙げられた保護者の声（抜粋）

添付資料A： 全国一斉休校中の学校に対する満足度の理由・自由記述に頂いた意見一覧

添付資料B： 学外オンライン活動に対する満足度の理由・自由記述に頂いた意見一覧

添付資料C： 保護者が心配していること・自由記述に頂いた意見一覧

添付資料D： 保護者がこれからの学校に期待していること・自由記述に頂いた意見一覧

添付資料E： 学校教育におけるICT活用について

1. はじめに

2020年は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックという、これまで経験したことのない状況下での一斉休校など、学校教育も大きな影響を受けました。学校に通う子どもがいる家庭でも、学校休校期間中はもちろん、その後の学校の対応や、新しい生活様式を反映した環境の変化によって、不登校の増加など、さまざまな影響を受けているようです。

本来2020年は新学習指導要領が施行され、本格的に学校教育改革がスタートし、「主体的・対話的・深い学び」に移行する年になるはずでした。しかし実際は、感染症対策のため、双方向型の学びはほとんど行われなかったところか、履修の遅れを取り戻すために、学校行事等も削られ、普段以上の速さでの詰め込み授業と多くの宿題が課され、子どもたちはストレスを溜めているという声が私達のもとにも多く聞こえてきました。

また、世界に比べて日本の学校は、授業中のデジタル機器使用時間がOECD加盟国の中で最下位と、ICT環境整備の遅れも問題になりました。

GIGAスクール構想で、今後、一人一台のデバイスの配布と学校のICT環境整備は進むかもしれませんが、それらを使って何を実現していくのかという、根本的な目的が論じられないままでは、教員の負担を増やすだけで、宝の持ち腐れになりかねません。それだけでなく、このままでは、個を活かし、主体的に学ぶ力を育てる教育改革を実現しようという機運はすたれ、一斉教育の押し付けに逆戻りしかねません。

さまざまな課題が山積している今、もはや学校だけに閉じて課題を解決することは困難であり、誰一人取り残さず、子どもたちの健やかな学びを保障するためには、学校・家庭・地域が連携して、社会に開かれた教育を実現することが不可欠です。

しかし、これまで、保護者達は学校教育の現状についてどう感じているのか、何を期待しているかが報じられることはほとんどありませんでした。

そこで、マザークエストでは、保護者アンケートを実施して現状を把握し、保護者が学校に何を期待しているか明らかにすると共に、保護者も当事者としてよりよい教育とはなにかを模索する一歩としたいと考えました。

今回のアンケート結果の特徴は、回答者のほとんどが自由記述に、多くの意見を書き込んでくださったことです。しかもそれは単なる文句ではなく、一つひとつの言葉に、未来を担う子どもたちを育てる親として、よりよい学校教育を共に実現したいという願いが込められています。

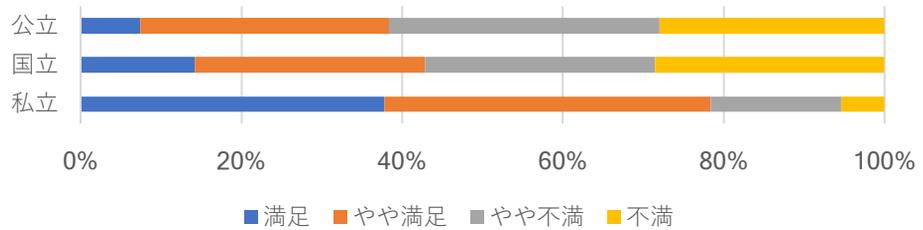
良い社会を作るには、良い子ども時代が必要です。

ぜひ最後までお読みいただき、改めて、教育の目的、学校の役割、これからのありたい教育について一緒に考えていただければ幸いです。

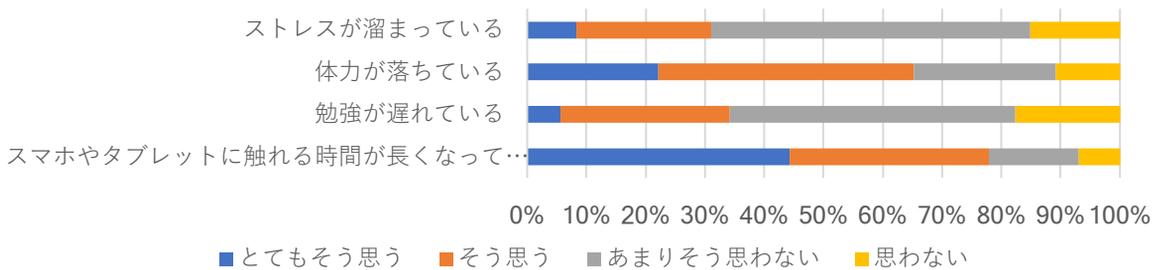
マザークエスト代表 教育ジャーナリスト 中曽根陽子

【調査結果サマリー アンケート結果から見えてきたこと】

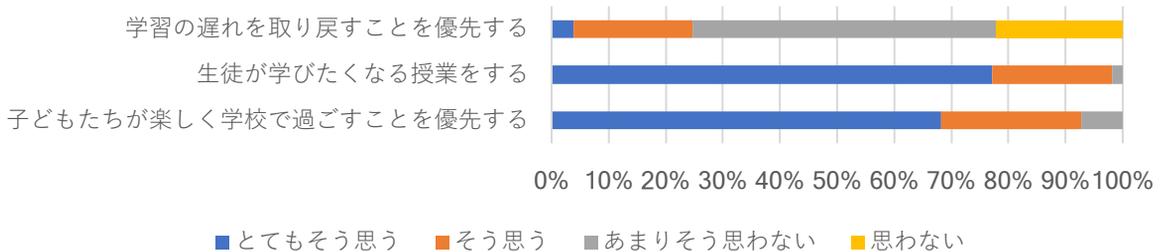
1. 全国一斉休校中の学校への満足度は、公立と私立で明らかな差があった。その理由は、オンライン環境の有無ではなく、生徒一人ひとりへの個別サポート（つながり）があったかどうかによるものが大きい。



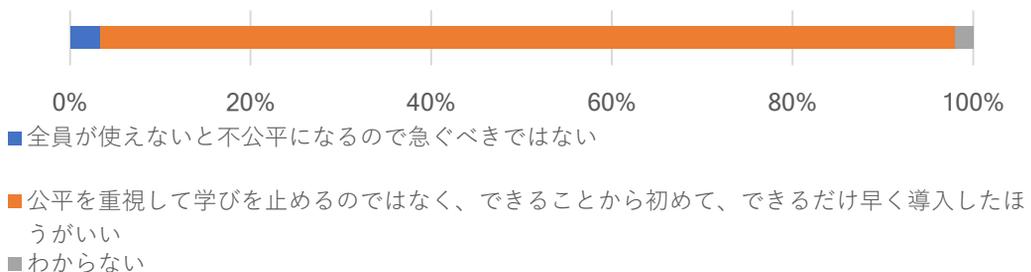
2. 保護者の心配は、勉強が遅れていることより、子どもの体力の低下とスマホやタブレットなどIT機器の利用時間が増えたことによる影響、及び子どもたちのストレスの高まりを危惧するほうが強い。



3. 保護者が学校に期待していることは、学習の遅れを取り戻すことや感染症対策の徹底ではなく、一番が、子どもたちが学びたくなる授業が行われることであり、次に学校で楽しく過ごし、その中で社会性や自ら学ぶ力を育てることである。



4. 学校教育におけるICT活用については、公平という名のもとに、一律一斉に始められるまで待つのではなく、今できることから推進すべきと考える親が95%。教員が教材を作るのではなく、既にある民間の教材を積極的に活用すべきと考える親が60%以上。



5. 対面とオンラインの学習の併用への要望も高く、何らかの理由で学校に通えない子どものためにも、ほぼ全員が、オンラインで学習したことが履修と認められると良いと考えている。

【中曽根陽子の見解】

本アンケート結果から「学校休校中の対応について、公立と私立で満足度に大きな差がある」ことが分かりましたが、その理由は、学校側からのアクションが乏しかったために、不安や混乱が発生したことにあります。「困難な状況であったことは理解しており、クレームをしたいわけではありません。今後に活かすとするなら、やはり何をおいても子どもたちと繋がることを考えていただきたいと思いました」という言葉に象徴されるように、親の満足度は、公立私立を問わず、オンライン授業を提供されたかどうかよりも、緊急事態にどれだけ迅速な方針決定と対応がなされたか、そして先生と生徒や保護者との信頼関係が築かれているかによるものが大きかったのです。

また、「学習の遅れを取り戻すより、子どもたちが学びたくなる授業が行われることへの期待が高い」ことも、今回のアンケート結果で注目すべきことだと思います。しかし、現場はというと、文科省が今年度の履修内容を翌年度以降に持ち越しても構わないという通達を出しているにも関わらず、翌年度に持ち越すことには抵抗感をもっている教員が多いというのが、私が取材して感じた実感です。その結果、詰め込みが行われているのではないのでしょうか。

今回の一斉休校という事態を経て、教育現場でのICT活用が注目されています。確かに、ICTは教育を大きく変えるツールです。すでに民間に優れたオンライン教材もあります。また校務をサポートするシステムも様々あります。それらも含めて有効活用すれば、教員の負担の軽減や、それぞれの子どもたちへの個別最適化対応も可能になります。また、オンラインとリアルを併用すれば、さまざまな理由で学校にいけない子どもたちも共に学ぶことができるでしょうし、世界とつながることもできます。

今や、基礎的な知識習得型学習だけならオンラインで可能です。だからこそ、改めてわざわざ学校という場に集まる意味を見直す事が重要です。保護者が期待しているのも、学習の遅れを取り戻すことではなく、子どもたちが楽しく学校に通えること、そして、学びへの意欲を刺激されるような関わりや体験、人や社会との繋がりを通しての心身の成長です。

しかし実際は、今回のアンケートでも、保護者にとって、子どもの体力が落ちていることや、スマホやタブレットに触れる時間が長くなっていること、ストレスが溜まっていることが一番大きな心配事であることがうかがえるように、夏休み明けから学校に行かれなくなる子どもたちが増えています。

今こそ「なんのため、だれのために学校があるのか」という問いをもう一度、学校・保護者・社会で共有し、未来を担う子どもたちにとって、最善の教育はなにか、子どもたちの健やかな成長を実現するために何が大切なのかを考えて行く必要があるのではないのでしょうか。

子どもたちは、未来です。振り返ったときに、新型コロナウイルス感染症パンデミックという未曾有の事態が、日本の教育を変えるチャンスになったと言えるように、私達大人が自分ごととして受け止め、考えていくことを望みます。

2. アンケートについて

(1) 目的

新型コロナウイルスの影響で全国で学校休校という事態になり、私達のもとには、休校中「遅れを取り戻すために課題が多く出され、子どもが勉強嫌いになりそう」「家庭学習の負担が大きくて大変だった」「学校に行く意味が分からなくなった」といった声が聞こえてきた。また、学校教育のICT化の遅れもよく耳にするようになった。しかし、これまで保護者の声が教育現場に届けられる機会はあまりなかったのではないだろうか。そこで、**① 現状について把握する、② 保護者は学校に何を期待しているのかを明らかにする**、という目的で、アンケートを実施した。

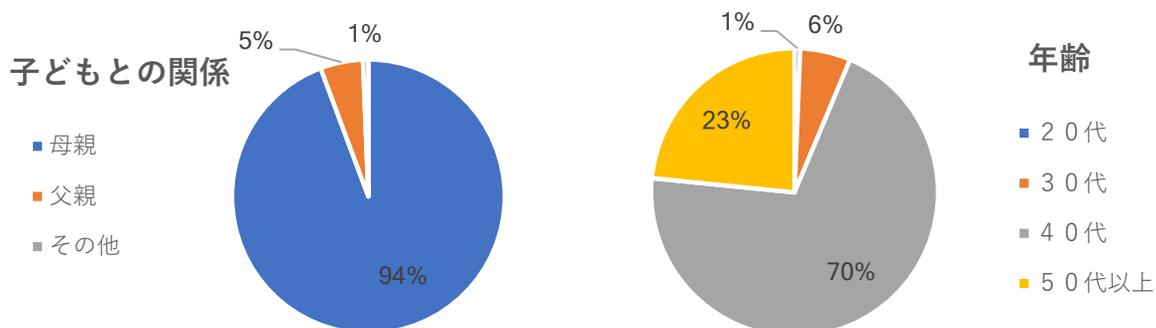
(2) 方法 Googleアンケートフォームを用いてオンラインで実施

(3) 対象者 小学生から大学生の子どもがいる保護者

(4) 期間 2020年10月13日～31日の19日間

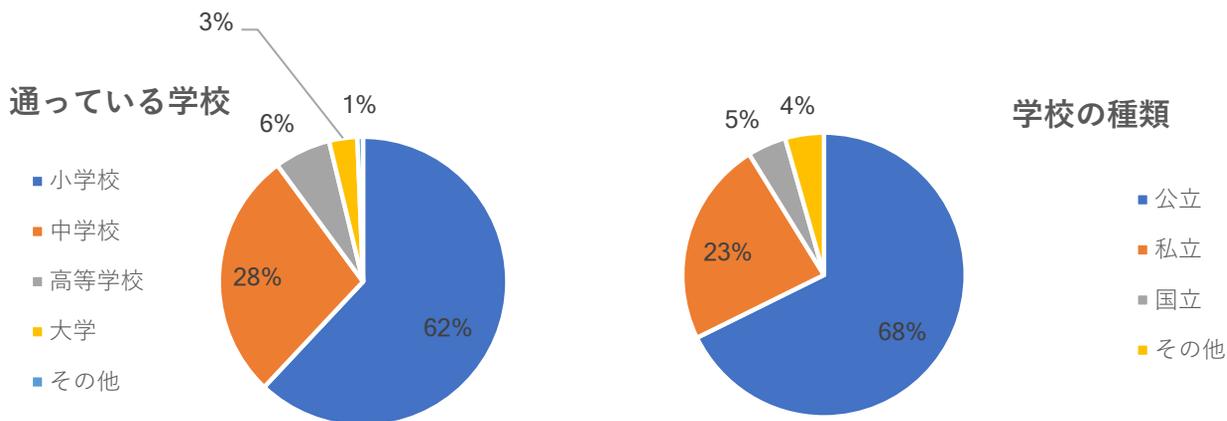
(5) 回答数、回答者の属性

有効回答数は158で、家庭数は134。回答者は94%が母親で、年齢的には30～50代が多かった。



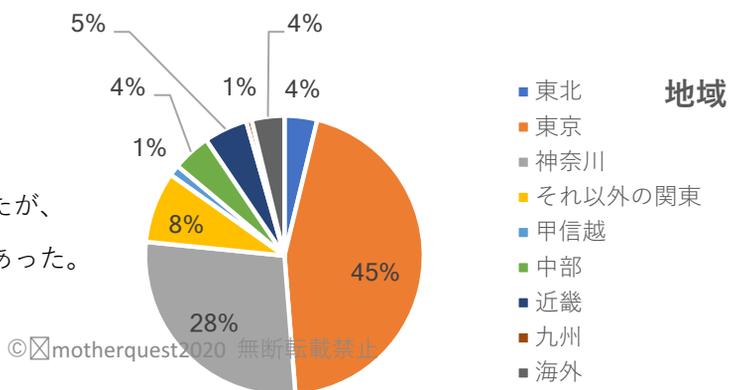
(6) 対象となる学校

回答者の子どもが通う学校としては、小学校が62%と最も多く、小学校と中学校を合わせて90%ほどであった。学校の種類としては、公立が68%、私立が23%、国立が4%であった。



(7) 対象となる学校の地域

回答者の子どもが通う学校の所在地は、東京と神奈川が多く73%ほどを占めたが、東北から九州、また海外からの回答もあった。



3. アンケート結果の概要

(1) 全国一斉休校中の学校及び学外活動に対する満足度

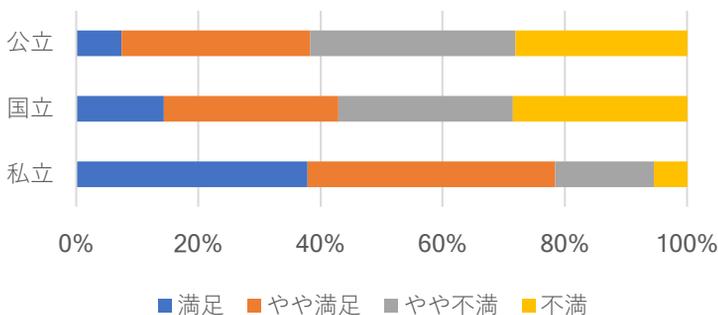
学校の満足度は、私立校では「満足」と「やや満足」を合わせると76%にのぼるが、公立校では39%にとどまり、「やや不満」と「不満」が上回り、学校により明らかな差があることがうかがえる。

学外活動の満足度は学校よりも高いことがわかった。

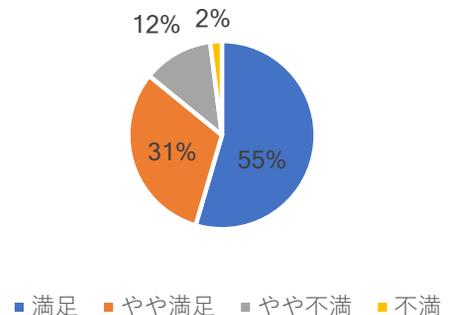
理由を見てみると、オンライン授業を提供したかどうかよりも、迅速な方針決定と対応、生徒及び保護者へ丁寧な対応と生徒への個別サポート、課題が子どもが自分で取り組めて適切な量であること、そして先生と生徒や保護者との信頼関係が築かれているか、という点が満足度に大きく影響していることがわかった。

学外活動では、学校に比べより迅速かつ個別の対応がしやすいことが満足度にも表れていると考えられる。

休校中の満足度



学外オンライン活動の満足度



(2) 保護者が心配していること： 体力の低下とIT機器の利用時間増、子ども達のストレス

体力が落ちていることとスマホやタブレットに触れる時間が長くなっていることが一番大きな心配事であることがうかがえる。またこれに起因して、視力の低下や肩こりなども挙げられた。友達と外で思い切り遊んだり、外出する機会が減っていることが、体力の低下とスマホやタブレットの利用時間の増加の両方に影響していると考えられる。

子どものストレスが溜まっていると回答した人は30%を超えており、以前より高くなっていると思われる。常にマスクをしないといけないことやお友達と遊びにくいこと、先の見通しができないことなどから不安が高まり、夜眠れなかったり不登校気味になる子どももいることがわかった。

逆に、学習についてはあまり心配していない。

他には、今後また休校になる場合の対策や方針が知らされないことを心配する声や、先生と生徒の関係性を危惧する声もあった。

(3) 保護者がこれからの学校に期待していること： 子ども達が楽しく過ごし、社会性や学び方を学ぶ場

感染予防対策も大事だが、子どもが学校で楽しく過ごせることをより期待していることがわかる。行事についても、できる形を模索して開催して欲しいと思っている人が多い。

しかし一方で、これまでやってきたからという理由で行事を開催する必要はない、全ての行事を開催できない状況なので、子ども達が何をしたいか選べるようにしてほしいという意見もあった。学習に対する遅れを取り戻すより、子ども達が楽しく学べる授業、探究型の教育への期待が高い。また、オンラインという選択肢ができた今、学校でないとできないことにシフトして欲しいという意見も多かった。

学校からの情報共有や、子どもの心のケアを求める声もあった。これらは心配していることにも挙がっており納得できる。

(4) 学校教育におけるICTの活用について： できることから推進すべきで、通常時にもオンラインの選択肢を

ICT環境の整備に関しては、できることから進めるべきと考える人が95%であった。自宅で子どもが1人1台使える端末がある家庭が70%を超えており、予想よりも整備されている。

既存の動画や学習コンテンツを利用すること、朝の会や双方向の授業をすること、先生と生徒、また生徒同士がつながる仕組みがあること、子どもが自分で課題に取り組めることに対する要望が高いことがわかった。

今回の休校でオンラインという選択肢が増えたことで、学校開校中でもオンラインで授業を受けられたり、対面とオンラインを併用できることへ整備を求める声が多かった。また、学校と保護者とのコミュニケーションについても、紙での連絡や保護者会、個人面談をオンラインにして欲しいという要望が多かった。

ICT環境の整備にあたっては、ICT専門スタッフを配置して、ICT整備と共に先生のITスキルアップを図るとよいという意見もあった。

(5) 考察

休校中にオンラインに移行できたかということより、学校が迅速に決断をしたり試行錯誤をしたりすること、生徒や保護者に丁寧に対応することが何よりも求められていることがわかった。このため、今後は学校に行けない状況でも、先生と生徒、生徒同士のつながりをどう作っていくかが重要である。

また、自宅のICT環境はかなり整備されていることがわかったので、オンライン学習となる場合に個人差が出る要因は、ICT環境ではなく自宅に生徒をサポートする人がいるかどうかなのかもしれない。

今回の休校でオンラインという選択肢が現実となり、通常時でもオンラインを活用し、欠席の際にオンラインで学習できたり、オンラインで学習したことも履修と認められるようになることを望む声が多く挙げられた。これからの学校の変革に期待したい。

自由記述にたくさんのご意見を頂いたため、全てのご意見をこの報告書に掲載することはできないが、マザークエストのホームページ (<https://www.motherquest.net/>)で公開しているので、ご一読頂ければと思う。

4. アンケート結果の詳細

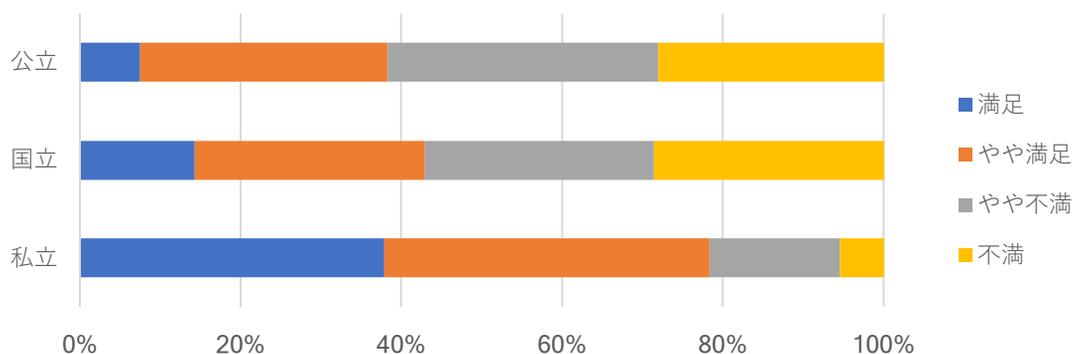
4. 1 全国一斉休校中の学校及び学外活動に対する満足度

(1) 学校の種類別満足度

全体としては、「満足」「やや満足」と回答した人はほぼ半数であった。

しかし、公立/私立/国立と種類別に見ると、明らかな差がみられた。私立校では「満足」と「やや満足」を合わせると76%にのぼるが、公立校では39%にとどまり、「やや不満」と「不満」が上回る。

休校中の満足度

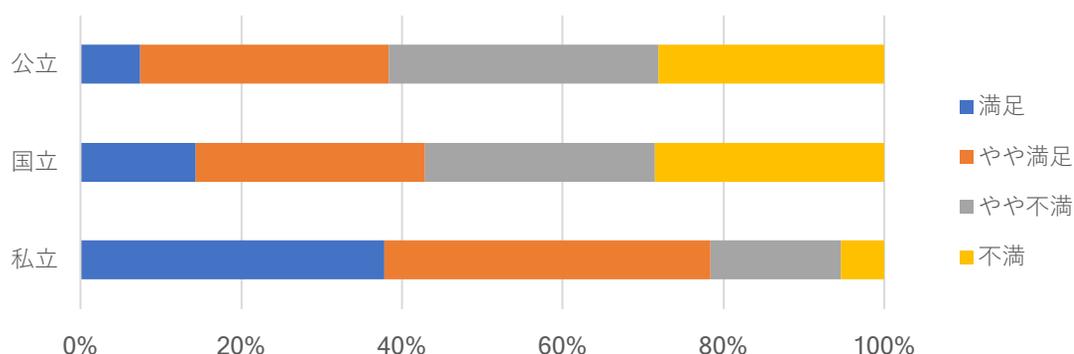


(2) 満足と回答した理由（抜粋）

「満足」「やや満足」と回答した人が挙げた理由としては、

- ①学校が迅速に対応してくれた
 - ②先生が試行錯誤して生徒のために誠意のある対応をしてくれた
 - ③子どもが自分で取り組める課題を提供してくれた。などが挙げられた。
- ・ ICT化を早急に進めてくれ、学校と家庭との連絡手段にLINEを取り入れたり、Zoomを使って担任やクラスメートとコンタクトが取れた。分かり易い適量の課題を週1回出してくれ、提出時には学校へ顔を出して担任と話すこともでき、大変安心できた。
 - ・ 急遽、全国で休校開始宣言がされた時につくば市は臨機応変で現実的な対応をしてくれたから。
 - ・ そのとき、できるかぎりの対応をしてくれたので。文科省に対して、また、教育委員会に対しては、やや不満です。
 - ・ 入学式のときに主任の先生が、学校側も試行錯誤して子どもたちの学びについて考えていることを話して下さり、課題についても、担当の先生方がそれぞれメッセージを書いてくださって、安心させられました。
 - ・ おうち時間割なるものが存在し、子供がその指示に従って学習や製作などをし、いきいきしていました。
 - ・ ベネッセのミライシードというオンライン学習教材を提供してくれたので。
 - ・ オンラインの学習ツールに加え、毎週プリントでの国語・算数の宿題があり、リズムを作りやすく、状況に合わせてオンラインを組み合わせて進められたため。子供が飽きなかったです。

休校中の満足度



(3) 不満と回答した理由（抜粋）

「やや不満」「不満」と回答した人が挙げた理由としては、①自宅学習は親の負担が大きかった②学校の対応が遅く不透明だった③先生からのフォローが足りないと感じた。などが挙げられた。

- ・ オンライン授業にはならなかったから。
- ・ 課題としてプリント配布するのみで家庭に丸投げされたため。
- ・ 課題のプリントを親が取りに学校に行ったり、宿題を毎日見たり負担が大きかったです。親も自宅で仕事している状況でしたし、そもそも図工などを教えるのは限界があります。
- ・ 一斉メールで3月から休校、そのまま春休み、春休み明け休校、と丁寧な説明はないし、電話一本して欲しい、にも丁寧に断られた。その後電話一本もらえたけれど、宿題がドバツと出されて嫌だった。
- ・ 学校側からのアクションが乏しかった。PTAがアクションしてくれてオンラインホームルームが開催されたが、他校がしてない、などの理由で初動が遅かったのは残念だった。
- ・ 休校中、学校から、電話など直接子供への声かけがなかった。休校中に宿題をしても、回収がなかった。
- ・ 子どもと学校、子どもと友達がつながる場や機会がなかったから。

(4) 満足度につながる要因

このことから、今後また休校になる場合に備え、以下のことを配慮するとよいと考える。

- ・ 子どもが自分で取り組める課題を、適切な量で出す。それに対して先生からのフィードバックがあるとよい。
- ・ 学校側は早い段階で方針を決め、課題配布や連絡手段をオンラインで提供する。
- ・ Zoomを使った朝の会など、先生やクラスメートとつながれる仕組みを作る。
- ・ 電話やメールで先生に連絡できると、子どもも保護者も安心できる。
- ・ 休校中こそ、子ども自身が興味があることを深める機会であり、子どもが課題を選んで取り組むるとよい。

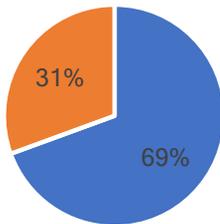
(5) 学外活動でのオンライン利用と満足度

学外活動（習い事やワークショップなど）をオンラインで利用した人は、70%近くにのぼった。

利用した活動としては、学習塾や探究型の塾、スタディサプリなどの学習コンテンツ、YouTubeなどの教育動画など学習に関するものが一番多かった。サッカーやバレエなどのスポーツは10%弱、その他としては楽器やプログラミングなどがあげられた。

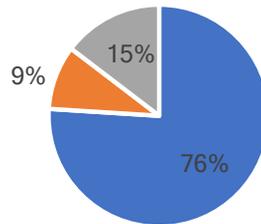
学外活動への満足度は、学校に対する満足度よりも高く、半数以上が「満足」と回答し、「満足」と「やや満足」を合わせると86%であった。

学外活動のオンライン利用



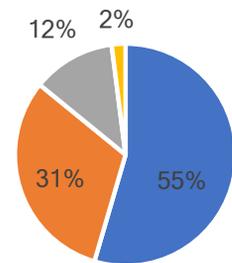
■ はい ■ いいえ

学外活動の種類



■ 学習 ■ スポーツ ■ その他

学外オンライン活動の満足度



■ 満足 ■ やや満足 ■ やや不満 ■ 不満

(6) 満足と回答した理由（抜粋）

「満足」「やや満足」と回答した人が挙げた理由としては、

- ① 子どもが1人で取り組めて楽しくできる
- ② 好きなことを好きな時間にできる
- ③ 感染のリスクがなく移動時間も取られない、などが挙げられた。

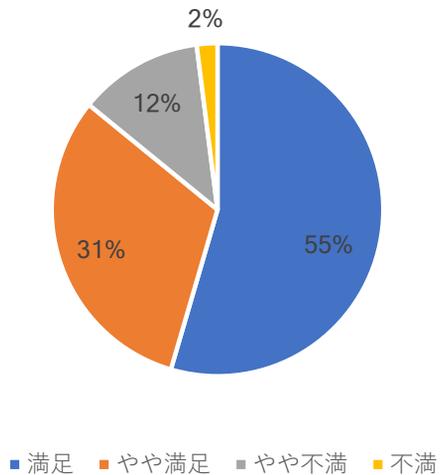
- ・子どもが進んでやっていたから。
- ・やりたいことを選択できるから。
- ・オンラインを通じ新しい体験や学びができたから。
- ・自宅にいながら好きな時間に取り組めるので。ゲーム的なコンテンツもあり、楽しんでやっていた。
- ・移動時間が不要になったことが本当に良かったです。
- ・感染のリスクなく、個別指導やグループセッションができたため。
- ・休校中の運動不足によかった。

(7) 不満と回答した理由（抜粋）

学外オンライン活動の満足度

「やや不満」「不満」と回答した人が挙げた理由としては、

- ① 動画配信のみだと子どもだけでの学習が難しい
- ② 友達とのつながりがない
- ③ できることが限られる、などが挙げられた。



- 学習塾は動画配信のみで、先生と生徒とのやりとりの場がなかったため。夏期講習もあくまでも通塾に重きを置く形だったため。コロナ感染が心配だったため、夏期講習は通塾せず、動画のみにしたが、通塾しない選択をした家庭向けにもZoomなどで対応をして欲しかった。
- 小学校高学年くらいまでは、指導者とのリアルなやり取りがないと、継続して積み上げ学習をする事は厳しいです。
- 勉強の幅を広げるのが難しいと思いました。他者の意見を聞いて触発される機会を持つことが難しく、一方向で淡々と課題をこなす状況になるため。
- 子どもがオンラインばかりで集中力がもたなくなりました。
- 1人でやるものでコミュニティや友達との繋がりを意識したものではないから。

(8) 満足度につながる要因

学校への満足度と学外活動への満足度を比較すると、学外活動の方が試行錯誤がしやすく、また迅速かつ個別の対応がしやすいと考えられ、このことが満足度につながっていると思われる。一方で、オンラインでできることに限界を感じ、習い事を休んだりやめたという人もいる。できることが限られるため、取り組む内容ややり方に工夫、またモチベーションを下げない工夫が求められる。

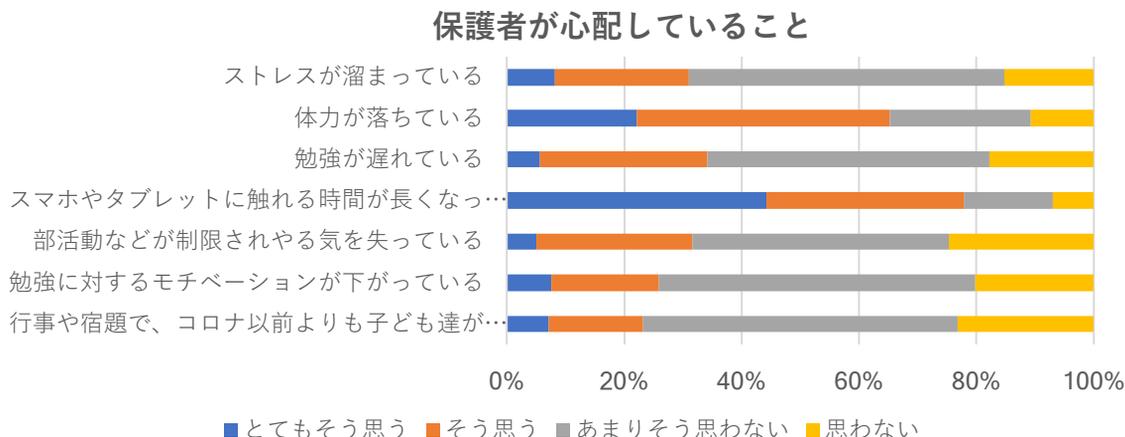
4. 2 保護者が心配していること

体力が落ちていることとスマホやタブレットに触れる時間が長くなっていることが一番大きな心配事であることがうかがえる。またこれに起因して、視力の低下や肩こりなども挙げられた。

ストレスが溜まっていると回答した人は30%を超えており、常にマスクをしないといけないことやお友達と遊びにくいこと、先の見通しができないことなどから不安が高まり、夜眠れなかったり不登校気味になる子どももいることがわかった。

今後また休校になる場合の対策や方針が知らされないことを心配する声や、先生と生徒の関係性を危惧する声もあった。

(1) 各質問への回答



(2) 自由記述で挙げられた保護者の声（抜粋）

- ・ 休校中はお友達とのコミュニケーションが遮断され、子供のストレスはかなりのものでした。にもかかわらず、学校はただ宿題を出し、どこまでできたかの進捗管理のみ、子供のメンタル面のフォローもなく、辛かったです。
- ・ もともと不登校傾向にあったのですが、学校での学習内容が難しくなってきたことや進度が早くなってきたことで、授業への参加を苦しく感じるようになってきているように思う。
- ・ 新型コロナが発生してから、夜寝ることに不安を覚えるようになり寝付けなくなりました。
- ・ 自由に行動する、という子どもらしさの原則が失われていることが心配。
- ・ 手を取り合って喜んだり、大声で応援したり笑ったりができない毎日の中で、感情表現が乏しくなっているような気がして気になっています。
- ・ 思いっきり遊べないので、それが、ストレスだ！と子どもが話しています。
- ・ 子供の今後の身体能力の低下。
- ・ 目の疲れや頭痛、肩こり、視力低下が心配です。
- ・ 家に閉じこもっていた期間に、ものすごく太った。
- ・ 先生とのコミュニケーション時間が足りないところからスタートした中、追われるように勉強を詰め込むことになり、先生と生徒の関係性脆さを感じる。
- ・ 学校から、今後同じ様な状況で休校になった場合の対策や方針が知らされないこと。
- ・ 教員も消毒作業などでより忙しくなってしまう、児童の様子を見守れる余裕がないかもしれないと少し心配しています。

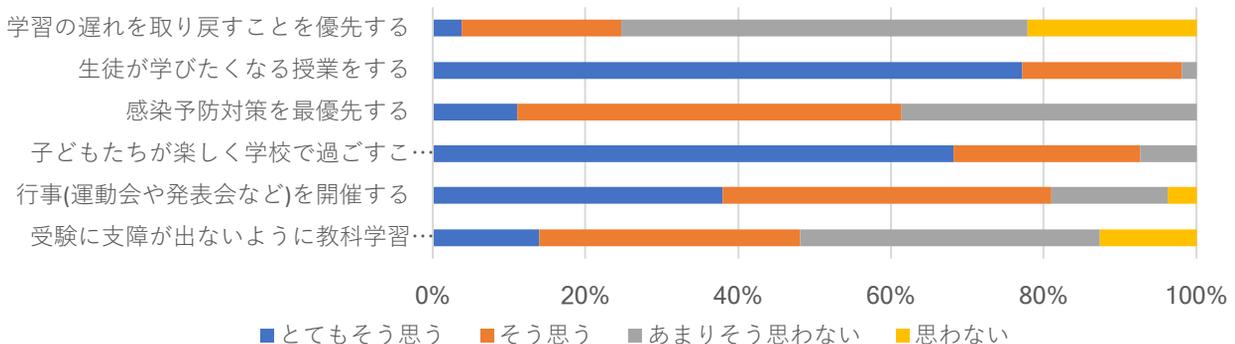
4. 3 保護者がこれからの学校に期待していること

グラフより、感染予防対策も大事だが、子どもが学校で楽しく過ごせることをより期待していることがわかる。行事についても、できる形を模索して開催して欲しいと思っている人が多い。しかし一方で、これまでやってきたからという理由で行事を開催する必要はない、全ての行事を開催できない状況なので、子ども達が何をしたいか選べるようにしてほしいという意見もあった。

学習に対する遅れを取り戻すより、子ども達が楽しく学べる授業、探究型の教育への期待が高い。また、オンラインという選択肢ができた今、学校でないとできないことにシフトして欲しいという意見も多かった。学校からの情報共有や、子どもの心のケアを求める声もあった。

(1) 各質問への回答

保護者がこれからの学校に期待していること



(2) 自由記述で挙げられた保護者の声 (抜粋)

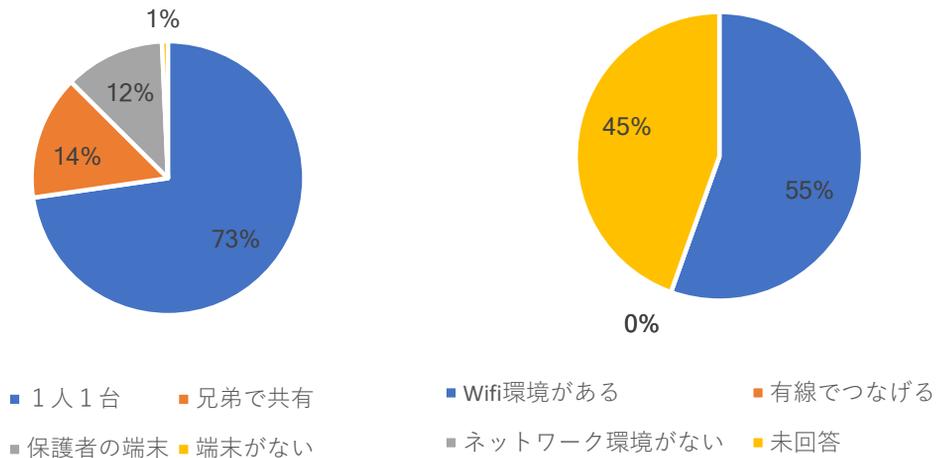
- 子ども達が友達と楽しく過ごせる機会を増やし、心の安定と絆を生むことが一番大事だと思う。
- 集団だからこそ成せる行事や活動で子どもが学び、成長していくようなカリキュラムを望みます。学校は勉強だけでなく人間関係を学ぶ場でもあると思うので、様々な行事などを感染防止に配慮しながらできるだけ行うことを期待したいです。
- 友達と協力しあって、学校ならではの経験・体験をすること。
- 今年全ての学校行事がなくなったので、感染対策も大事だが可能な範囲で実施して欲しい。
- 毎年やっているものだから、児童が楽しみにしているから、という理由でイベントをやろうとする必要は無いと思うので、躊躇せず中止等にしてほしいです。
- 中止の行事と、開催の行事があります。うちの子供が、本当にやりだかったのは中止の行事でした。子供がどうしたいのか、まず、話をきいてから、できること、できないことを伝えてほしいです。
- 欧米のように考える教育を中心にしてほしい。
- コロナ対策を理由にアクティブラーニングを諦めないでほしい。
- 基礎的な学習は家でもできるので、学校でしかできないこと(他の子と意見を交わす、協力して何かを作り上げるなど)を重視した教育を期待します。
- 苦手意識を刷り込む教育から、自分に自信が持てる教育になるといいと思います。
- 学校という人が集まるコミュニティがなんのためにあるのか問われている時代だと思います。机上の知識学習はオンラインでも可能。学校では『体験』『対話』『社会とつながる』ことを重視して、『自ら考えて行動する人』を育てて欲しい。
- とにかく情報を共有してほしいです。
- 子どもたちの心のケアができるような体制づくり。
- 先生の心のケアを強化してほしい。先生のストレスによる悪影響は、こどもが受けることになってしまっている。
- 恐れずとにかくやってみて頂きたいです。私達保護者も前列にとられる事なく学校を見る事ができている今だからこそ。理念だけは発信し続けて頂きたい。

4. 4 学校教育におけるICTの活用について

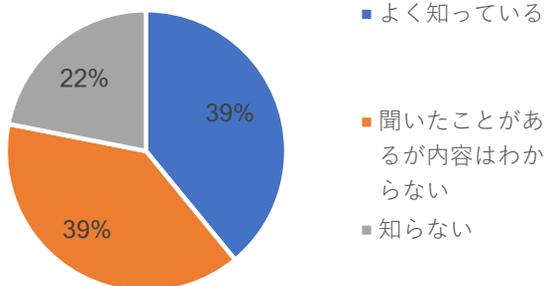
(1) 家庭でのICT環境

子どもが使える端末については、1人で1台使える端末があると答えた人が73%に上り、予想以上に家庭で使える端末があることがわかった。

またネットワーク環境については、未回答も多かったものの、回答した人は全てWifi環境が自宅に整っていた。

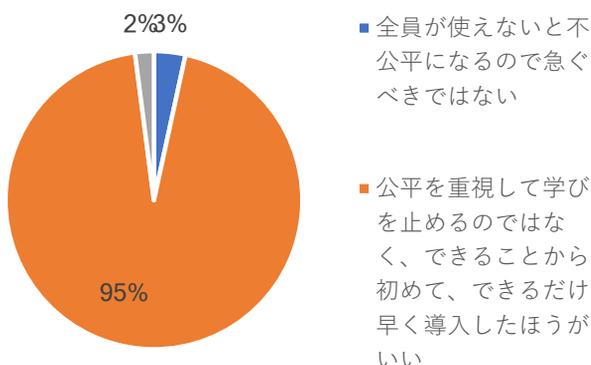


(2) GIGA スクール構想について知っていますか？



GIGAスクール構想については、「よく知っている」と「聞いたことがあるが内容はわからない」が同数で39%ずつであり、学校のICT整備への関心が高いことがうかがえる。

(3) 学校教育にICTを導入する時期について



ICT導入については、できることをできるところから進めるべきと考えている保護者が95%であった。

(4) 各質問への回答

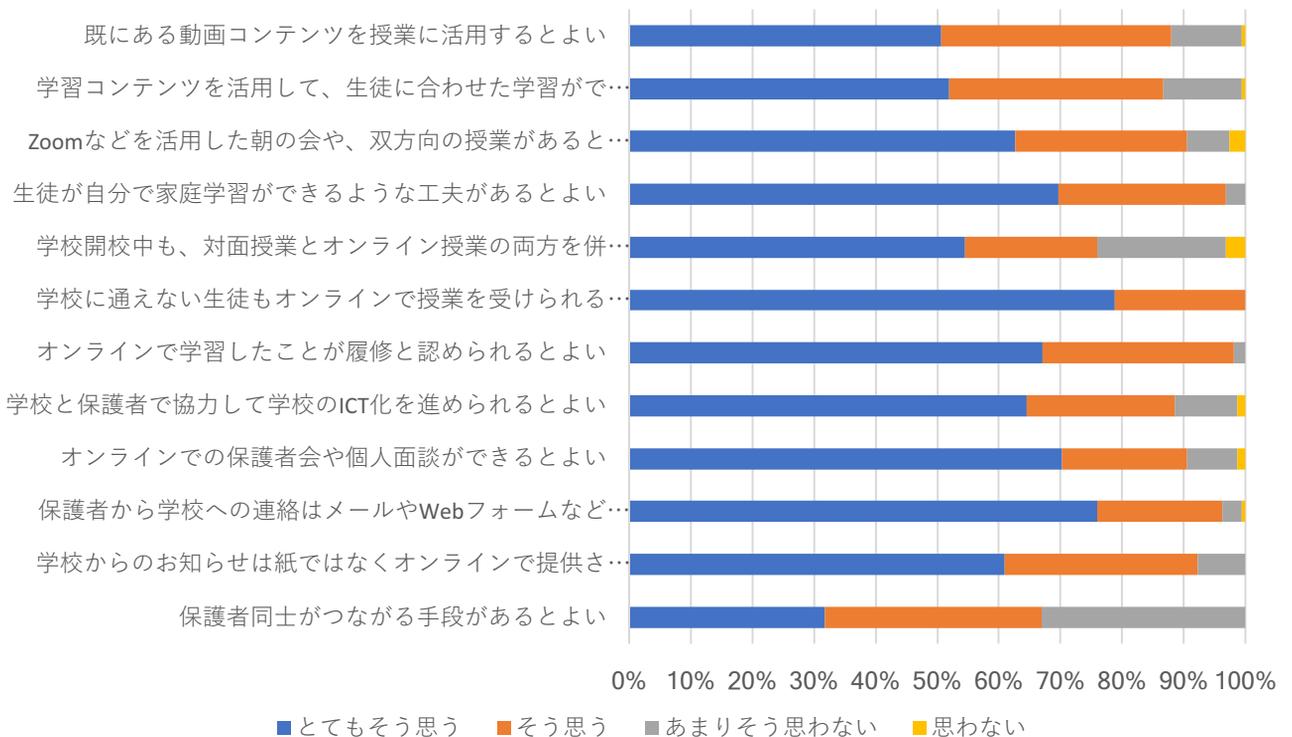
グラフより、

- ①基礎学習については、先生がオンラインの教材を作るよりも既存の動画や学習コンテンツを利用するとよい。
- ②朝の会や双方向の授業への要望が高く、先生と生徒また生徒同士がとつながる仕組みがあるとよい。
- ③課題は、子どもが自分で取り組める工夫があるとよい。
- ④学校開校中でもオンラインで授業を受けられるとよい、という意見が多いことがわかる。

また、学校と保護者とのコミュニケーションについても、紙での連絡や保護者会、個人面談をオンラインにして欲しいという要望が多かった。

先生に任せるのではなくICT専門スタッフを配置して、ICT整備と共に先生のITスキルアップを図るとよいという意見もあった。

ICT活用について



(5) 自由記述で挙げられた保護者の声（抜粋）

- 一日も早く、ICTを公立にも！
- ICT教育に精通した教員などの配置を早く進めたほうが良いと思います。
- 学校現場に丸投げすると今以上に教職員が疲弊してしまうように思います。教職員の負担も考慮し、保護者や地域も巻き込みながら柔軟性のある活用をして行けたらよいのではと思います。
- オンラインの形は本当に普及して欲しい。コロナでなくてもいろんな形の学びが必要だと思う。いろんな子どもがいる。不登校児の友達もいる。我が子も行き渋っている。学びの形が本当に変わってほしい。時代にあわせて変わりたい。
- ICT環境は、多様な学び方と在り方の1つの手段ではありますが、オンラインが是か非かといった考え方や、ただICT環境を整える事だけを急ぐのではなく、学びの場としてどう繋がっていきたいか？どんな学びにしたいか？という前提をまずは整えていくことが必要なのではないかと思っています。
- もともと作られているスタディサプリなどをどんどん活用した方が良いと思います。授業内容が簡単過ぎてつまらないから遊んでしまう子もいたり、学校の授業の内容を理解するのがゆっくりペースの子もいたりそれぞれなので、自分のペースで勉強ができる方が良いと思います。
- 教材としての質よりも、生徒が簡単に使える部分だけをオンライン化、のように、ユーザである生徒の利便性をまず向上させることが大事かと。
- 既にある素晴らしい教材を利用し、先生は先生にしかできないリアルなサポートにまわるべきかと思っています。
- 積極的に外部コンテンツの授業を活用し、教師は子供とそれを一緒に見ながら同じ目線で考えるスタイルも良いと思います。（教師が教えるのではなくファシリテーターになる）
- 子どもの学校は、スタディサプリを使っているが、息子は流しているだけで、勉強になっている様子はない。これも、学ぶ意欲のある子には、良いツールだと思うが、そこに行き着かない子どもを、どうオンラインでフォローするのかを考えて欲しい。
- 外国の人とも、簡単に繋がる時代なので外国文化の交流など積極的に授業に生かして欲しい。
- 既にオンラインでの面談や保護者会は、実施されてます。連絡も、メールです。